平成２５年度　第２回はけの森美術館運営協議会

平成２５年７月３０日（火）

【山村委員】　　それでは、第２回小金井市立はけの森美術館運営協議会を開催したいと思います。

次第に従って、事業実施報告をお願いします。

【荒木学芸員】　　では、最初に終了した事業についての報告からさせていただきます。

前回の運営協議会が開催されたのが、所蔵作品展、「中村研一　描線の妙味」の終了の直前でしたので、最終的な来館者数の資料をここに示しました。来館者数は、春のちょうどいい時期で、お花見の散歩のお客様、ウォーキングとあわせていらっしゃったお客様、また、会期中に無料観覧日があったということとあわせまして、合計人数が１,４３４名となりました。関連事業などについては、前回報告しております。

それから、資料のほうでは、まず、展覧会でまとめました。現在開催中の、所蔵作品展「旅する画家」がスタートしました。現在、関連イベント、ワークショップ２本を予定していまして、参加申込受付中です。出足としては、ちょうど夏休みのスタートに近い時期から会期が始まりましたので、初日から小中学生が来館しています。特に中学生の二、三人のグループが一通り展示を見た後、また１階に戻って、ご覧になったり、テーブルとゴザを置いたコーナーで宿題など書きものをしていたり、立ち上がってまた展示を見たりという光景が、ほぼ毎日のように見られております。

あと、この展覧会では、来館の小中学生は、観覧料が無料になるとともに、このリーフレットを配布しております。ツルツルの面が読み物の面になっており、裏のちょっとざらざらした面にいろいろ書き込みができるようになっています。決まった回答を求めるというよりは、自由に思ったことを書いてもらうようにということを心がけて製作しました。

【村澤委員】　　こちらは小中学生がお持ち帰りになるわけですか。

【荒木学芸員】　そうです。

【村澤委員】　　書いている様子はどうでしたか、多かったですか。

【荒木学芸員】　　そうですね、「クリップボードも使ってくださいね」と言ったら、手に取って書きながら見ていらっしゃることもありました。あと、小さい小学校低学年のお子さんですと、保護者の方と一緒に見ながら、保護者の方がこうなのねと説明しながら使っ

ていただいているということで、保護者の方に鑑賞の誘導のツールとしても使っていただいていると思っています。　この「旅する画家」は９月１６日の祝日まで行われております。

終了した事業がもう一つありまして、この２つの展覧会の間にワークショップを行いました。現在会議中のこの部屋で実施しました。仮称「多目的講義室」という部屋ですけれども、オープン記念ワークショップということで、「空カケル教室～水彩で空を描こう」というワークショップを行いました。この、アンケートの集計が別紙になっております。

【中村学芸員】　多目的講義室オープン記念ワークショップの「空カケル教室」の画像が、こちらのスライドのほうに映してありますので、こちらを見ながらアンケートの集計の結果を聞いていただければと思います。

こちらのチラシのほうも皆様に配付しましたが、アニメーション背景美術家の方が講師ということで、この部屋を使って初めてのワークショップを行いました。水彩で興味を持たれる方とアニメーションに興味を持たれる方、さまざまな方にご参加いただけまして、応募が２６名、当日参加者が２３名ということで、この教室がいっぱいになるぐらいの参加者でワークショップを開催しました。

アンケートを見ていただければわかりますように、今回、このワークショップで初めてこの美術館に来られたという方が約４割いらっしゃいまして、美術館のことを周知する、いいきっかけになったのかなということもありますし、あと、６割の方が２回目以上で、ここの館に見えたということもわかりましたので、今後とも、こういう事業を継続していけたらと思いました。

イベントも、やはり市報で知られた方が多いということもあったのですけれども、今回、ポスターを体育館とか学校で配布したことで、学生の方は、やはり学校で見たポスターで来られた方がすごく多かったので、意外と高校生とか大学生の方は余りこの館にいらっしゃらないのかなという印象を受けることが多いのですけれども、もう少しそういった方々にアピールしていけたらと思っております。

それから、アニメーションや水彩画に興味があるという方もすごく多かったのですけれども、来場の理由で「その他」と答えた方が、「『ハーブ＆ドロシー』という映画を見て美術に触れてみたくなった」とおっしゃっていた方がいらっしゃいました。これは美術収集家の夫婦のドキュメンタリー映画で、そういう日常的な些細なきっかけでアートに触れたいとなったときに来られる美術館があるというのはすごくいいことだと思いまして、この

きっかけは私としては心強いきっかけだと思いました。

非常に満足度が高かったのですけれども、今、この映されている写真は、中学生の女の子が色紙まで準備してきて、最後に講師の方へ水彩の絵を描いてくれとお願いしていました。この方の感想が私は本当にすごく心に響くといいますか、「すごくよい、人生にかかわる体験をしました」とおっしゃっていただけて、そういう体験を一人でもしていただけたというのは、本当にこの企画が成功したと見てもいいのではないかと感じられました。

反省点としては、やはり、人が多過ぎたということとか、いろいろ細々とあるのですけれども、おおむね皆さんから非常に高い満足度をいただけたので、牟田さんも学芸大出身の方で、小金井市に住んでいらっしゃる方ということでつながりがある方なので、今後とも、連続ワークショップなり何なり、関係性を深めて、また同じような企画、また発展した企画をしていけたらと思いました。ワークショップに関しては以上です。

【山村委員】　はい、ありがとうございました。では、今までのところが、２４年度から２５年度の「旅する画家」の展覧会の報告と、ワークショップ「空カケル教室」の報告でした。ありがとうございました。

【鉄矢会長】　ありがとうございます。３番目に入ります。

では、平成２５年度実施予定事業について、状況報告をお願いいたします。

【荒木学芸員】　今ご覧いただいた事業報告の裏面をご覧ください。はけの森美術館の２５年度、一部は２６年度にかかる今後の実施予定事業を列記しております。

まず、展覧会についてですが、１０月１２日から「市町村立美術館活性化事業、第１４回共同巡回展」として、「岐阜県立美術館蔵　コレなんだ？　佐藤慶次郎のつくった不思議なモノたち」展が始まります。これにつきましては、既に佐世保市の島瀬美術センターで、巡回展がスタートしております。

巡回展のスタートに先立ちまして、巡回館３館共通で行うワークショップのための準備として、都内にお住まいの佐藤慶次郎の作品の製作協力者だった石川喜一さんを講師に、当館のこの場所で、ワークショップの準備のためのワークショップというものを行いました。参加者は、当館のスタッフ、及び愛知の安城市民ギャラリーの学芸員、財団法人地域創造のスタッフ、それに当館館長をはじめ、コミュニティ文化課の職員も交代で全員参加しました。他に、別企画の佐藤慶次郎展を去年からことしの初めまで行っていた、多摩美術大学美術館の展覧会担当者や、展覧会の助手をされた皆さんも参加してくださいまして、特に、機械にかかわる部分の準備を大変助けていただきました。

石川さんが、作品を見たことがない人がいるかもしれないからということで、佐藤慶次郎のアトリエから幾つか作品のサンプルといいますか、試作品を送ってきてくださいました。

その、構造を見せていただくことによって、そのワークショップでどういうことをするかということを説明していただきました。

スライドのここに２つ、ちょっと黄色く見えるものが並んでいますけれども、これがコイルです。電磁石のように、このパーツを準備し使って、佐藤慶次郎の作品と同じ動きをつくってみよう、あるいは、もっと違う動きをつくってみようということは大まかに想定はしていたのですが、それを実際に一般参加のワークショップで行うとして、難易度がどれくらいなのか、どの程度のことまでできるのかということを実証するために、この機械をつくりました。

佐世保での展覧会スタート後のワークショップが７月１４日でしたので、その前にこうやって作業してみて、何が必要かというものを各館で、何を用意しておかなければいけないかということを検証することができました。

【平岡委員】　それで、実際、これを踏まえて本番のワークショップが１０月ですか。

【荒木学芸員】　当館では１１月初めになります。すでに佐世保では終了して、この夏に安城でも１回行って、また、こちらに向かいます。

佐藤慶次郎展のワークショップは、このほかにも準備中でして、そちらはＮＰＯ法人アートフル・アクションに講師の依頼や企画の協力をお願いしています。

【鉄矢会長】　それはまだチラシはないんですね？

【荒木学芸員】　チラシはもうでき上がっているのですが、手続上のことで、もう間もなくオープンになります。

【鉄矢会長】　どんな作品が来るのか全然わからないです。見えている人しか見えていないのだろうな、何が動くのだろうなと。

【平岡委員】　今、スライド画面の中で手に持っているのがレールみたいなイメージで、あそこに磁石の小さい輪が通るんですね。それに対して電磁石のパーツを幾つかを組み合わせてあの形になるのですけれども、あれに電気を入れて、位置関係でどういう動きをするかというような形のワークショップを予定していて、その難易度が子どもたちにとってどれくらいの難易度があるのかというのを、ちょっとやってみたところなんです。思わぬところは、電磁石が意外とすぐ熱くなってしまって、子どもたちにさわらせないようにす

るにはどうしたらいいかということをやったりとか、みんな、佐藤慶次郎になろうと言いつつ、うまくいかくなくてあれこれ動かしたりとか、楕円がうまくつくれないとか、そういう初歩的なことを大人でもやっていたので、まあ、そういう意味では、いろいろな人がやっても、自分の楽しみもそれぞれ見つけられるかなという糸口はちょっと、私も少しだけ参加したのですけれども、つかめたかなというような事前準備でした。

【山村委員】　一般に募集したワークショップではなくて、事前の内部の試行。

【荒木学芸員】　準備のためのものです。これをブラッシュアップして一般向けのワークショップを１１月に予定しています。もうすぐ募集もスタートします。

【上田委員】　これは期間中、１回だけですか。

【荒木学芸員】　そうです。１回で人数多めです。このワークショップは割と全年齢層向けです。他のワークショップが２種類。低学年向けのものと、高学年から中学生以上くらい向けのものというふうに分けています。

【山村委員】　３回というのは、今の佐藤慶次郎の関連のワークショップ。

【荒木学芸員】　それが３回です。

【鉄矢会長】　ちょっと話を戻していいですか。佐藤慶次郎展が１７日に展覧会が終わって、この後の下旬から１２月の年末までにワークショップをやるのが教育普及。

【中村学芸員】　まだ交渉前なのですけれども、先ほどご紹介しました牟田先生をまた講師に迎えられたらなというのがこちらの希望です。

【上田委員】　「空カケル教室」ですか。

【中村学芸員】　そうですね。その牟田先生にお願いして、今度は「空」ではなくて別のテーマで。

【上田委員】　「森」とか「海」とか、ぜひやってほしいですね。我が家の娘も中２なんですが､すごく興味を持って､美術部の方たちも行きたいと言っていたのですけれども、ちょうど移動教室と重なっていまして応募できなかったのです。とても残念がっていたので、ぜひまたやってほしいと思います。

【中村学芸員】　はい。

【荒木学芸員】　１館目の佐世保の開会式は、佐藤慶次郎展のオープニングの、総合開会式ということで、当館からは館長が公務と重なってしまったので、吉川係長が館を代表して、また、展覧会担当として私が佐世保に行ってまいりました。これはそのときの写真です。（スライド上映）総合開会式ということで、かなり来賓の方も多くて、テープカット

も行われました。この子どもたちは、ずっとご挨拶を聞いて、テープカットにも立ち合った、地元の保育園の子どもたちです。

保育園の子どもたちが作品を熱心に見ていたので、ほほ笑ましかったです。ただ、会場が、ご覧になっておわかりのように広いところもあって、ケースに突進するような子どももいて、結構大変でした。

地元の高校の先生が、島瀬美術センターに研修に来たという縁で、その高校の生徒数名もオープニングに立ち会っていました。ちなみに、工業高校だそうなので、磁石や電気のオブジェにすごく関心を持ちながら熱心に鑑賞をしておりました。

【鉄矢会長】　うちも科学技術高校を呼ぶんですか。今の話だと、何かそんな感じがして。科学技術高校を招待したら、科学技術高校はすごく喜ぶのではないですか。いつものつながりは学芸大とか、そういう美術のあるところばかりですけれども、こういうときに。

スライドのこの展示は手をつないで電気を通すやつですか。

【荒木学芸員】　そうですね。この黒い箱の上にあるものを、普通は両手で持つと音が出るというもので、電子楽器みたいな音が出るものなのですけれども、何人かで手をつないでも。

【鉄矢会長】　音が変わるんですか、ギュッと持つと。

【荒木学芸員】　ギュッとでは変わらなくて、多分、手に当てる面積とか、指先だけ当てるとかで変わるのですけれども。

【鉄矢会長】　多分、隣の人とつないでいる何かが違うと変わるのかなと。

【荒木学芸員】　動作とは余り関係ないみたいですね。

写真の、車椅子に乗っている方が佐藤慶次郎の奥様で、奥様が子どもたちに、「手だけではなくて、耳とかほっぺとかでもさわっていればつながるのよ」というふうにおっしゃっていました。

【鉄矢会長】　これ、すごくいい写真です。

【荒木学芸員】　鑑賞教室ではぜひ、やってみたいと思っています。

この佐藤慶次郎展が当館では１０月から１１月まで、その後、少し間があきまして、当館主催の展覧会としては、３月下旬から来年度、５月にかけて所蔵作品展を開催する予定です。これはまだ詳細は決まっておりません。

それから、少し先になりますが、来年度の企画展についても報告したいと思います。こちらは、佐藤慶次郎展と同じく、財団法人地域創造の助成による市町村立美術館活性化事

業の、今度は第１５回共同巡回展として、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館が所蔵する猪熊弦一郎作品による展覧会、これに参加することになりました。

猪熊弦一郎は、以前より当館でもいつかは取り上げたい作家ということで考えておりまして、この猪熊弦一郎展を地域創造が企画を立てて参加館を募集していたということで、今回参加することになりました。これは、今のところ来年の７月下旬から９月上旬、１年後に開催する予定です。今、準備を始めているところで、８月に第２回目の関係会議を開催します。

【鉄矢会長】　済みません、質問していいですか。こういう企画展をやるときに、薩摩顧問の力がないと、今、非常勤だけではやはり信用度は低いのでしょうかというところです。いろいろな苦労があったかと思うので、その辺をちょっとお聞かせいただけると。

【荒木学芸員】　最初に佐藤慶次郎展への参加を地域創造に申し込んだときに、やはり、地域創造での審査の際に、「非常勤しかいない体制で大丈夫か」という指摘はされたそうです。その中の審査の方に、当館をよくご存じな、府中市美術館の志賀学芸員がいらして、「薩摩学芸顧問がいるので大丈夫だろう」と助言いただいて参加するようになったと聞いております。

【鉄矢会長】　その前例があるので、今回のも入れたということですか。

【荒木学芸員】　はい。

【鉄矢会長】　わかりました。それは、常勤の学芸員がいればそういうことはないということになるのですか。

【荒木学芸員】　もっとスムーズにいくと思います。

【鉄矢会長】　はい、ありがとうございました。

【荒木学芸員】　展覧会については以上です。

教育普及事業につきましては、展覧会に係るものとしましては、まず、市立小学校４年生が来館する鑑賞教室ですが、現在、開催しているのは「旅する画家」で、２校、これは９月に入ってからです。それから、「佐藤慶次郎展」で７校が来館する予定になっています。

【中村学芸員】　大体、日程のほうが決まりまして、バスの手配も決まったという段階です。鑑賞の内容を先生方とこの間、打ち合わせをしまして、佐藤展の方に関しては、ＤＶＤを先生と一緒に観たら、先生たちもすごく喜んで「今まで動くものというのは鑑賞教室で見たことがなかったので、何か新しい作品なので、子どもはすごく好きだと思う」というふうにおっしゃってくれました。小学校３年生のときに、科学の力を使った美術作品

をつくろうということをやった小学校もあるそうで、「そういう科学的な側面も入れたらおもしろいかもね」とおっしゃっている先生方もいらっしゃったので、その意見を受けつつ、どういうアプローチをしていこうかというのは、今、お話ししている段階です。先生方が、事前授業や事後授業を頑張ろうと、とても意欲を示されたので、いい鑑賞教室にしたいと思っております。

続きまして、先ほども少し話題に出たと思うのですけれども、１１月下旬から１２月にかけて、休館期間中ですので、先ほどお話ししました、多目的講義室オープン記念第２弾のワークショップを開催できたらと企画している途中です。まだ、講師のスケジュールを押さえているわけではないのですけれども、筆などの用具も購入しましたので、そういったものを生かせるような企画にしていきたいと思っております。ワークショップに関しては以上です。

次に、５市共同事業「タマのカーニヴァル」です。

【事務局（吉川）】　「タマのカーニヴァル」について、前回今年度の事業予定でお話しさせていただいたかと思いますが、多摩地区の５市、武蔵野、三鷹、小金井、国分寺、国立市が共同で東京都市長会から助成を受けて行う事業で、今年は小金井市が幹事で、小金井市のはけの森美術館とか、交流センターとか、この美術館のそばの地の利を生かして連続ワークショップをやっていこうと思っております。

この間の土曜日から始まったのですけれども、音楽、ダンス、演劇、美術などを織りまぜた２月までの連続ワークショップが１本と、学校出張ワークショップというものを考えておりまして、その二本柱でやっていって、最終的に２月２２日、２３日の土日で、市民交流センターとその周辺を使って発表しようというふうに考えております。

ここの美術館のちょうど休館期間中に当たっておりますので、そのときに創ったものなどを中心に、この「タマのカーニヴァル」の展示を、内容の詳細は未定なのですけれども、ここの美術館で展示をやっていきたいと思っています。

【鉄矢会長】　ワークショップの展覧会ですか。

【事務局（吉川）】　そうですね、ワークショップの展覧会を最終的にはここでやっていきたいと思います。

【鉄矢会長】　それは、今回初めてですか。

【事務局（吉川）】　初めてです。

【鉄矢会長】　初めてですよね。

【事務局（吉川）】　どんな展覧会になるのかというのは、これからスタッフとほかの学芸員とも相談してやっていかなければいけないと思っています。これは全て初の試み尽くしでして、５市の共同事業はずっとやっているのですけれども、小金井市の組織の中でも、企画政策課が総括をして、美術館の職員や、交流センターの指定管理者に協力してもらって会場とか、いろいろな便宜を図っていただくという形でやっているところです。実際の企画・運営をＮＰＯ法人アートフル・アクションにお願いして、市の芸術文化の計画に沿って盛り上げていこうという部分も含めて、すごく欲張りなのですけれども、いろいろなものを盛り込んで、この事業をやっていこうとしております。

アーティスト、音楽家の港大尋さんが総合ディレクターで全体を統括してやっていただきます。その中に、サーカスアーティストの方とか、またフルート奏者さんとか、結城座にいらした方で、平井航さんとか、いろいろなアーティストがかかわってやっていきます、一番最初は、ちょうど土曜日に説明会をやったんですけれども、ミニワークショップもやろうということで、子どもたちがお鍋とかボール等を持ってきて、港さんと一緒に歌を歌ったり楽器を鳴らしたりしました。太鼓の音にすごく子どもたちが集中して一緒に楽しそうにやっていました。

今度の、リソ刷りのチラシのほうに９月までの予定が入っているのですけれども、その中で、７日にこの美術館の単独の夏のワークショップが一緒に入っております。

【中村学芸員】　８月７日にこの美術館で行われるこのワークショップが、書いてないのですけれども、「おはなしきもだめし」というタイトルです。

【平岡委員】　白い紙の裏側が、今、話をしているワークショップ、８月７日です。

【中村学芸員】　ムジナ坂という坂があると思うんですけれども、そのムジナというのは妖怪で、妖怪とかお化けのような、そういうものをモチーフに、木とか石とか、そういうものを拾って操り人形をつくって、元結城座の方がいらっしゃるので、その方の指導で怖い話をしながら人形を操ったり、童歌を歌うというような内容ということです。なので、フィールドワークをして、それをもとに製作するという内容になっています。

【事務局（吉川）】　今のムジナ坂もそうですけれども、小金井小次郎の伝説とか、いろいろそういう小金井に伝わっているような伝説をピックアップしてやっていかれたらいいなということは、相談しています。港大尋さんが、この間のワークショップのときに、「ムジナの歌」というのをつくってくれました。谷川俊太郎さんがつくるようなちょっと回文のようなおもしろい詩でしたけれども、結構子どもたちはおもしろがって歌っていました。

【鉄矢会長】　質問してよろしいですか。このはけの森ワークショップは多目的室で行われるものですか。

【事務局（吉川）】　そうですね、はい。

【鉄矢会長】　展示室は使わないと。

【事務局（吉川）】　今、展覧会中ですので。

【鉄矢会長】　８月７日は、ですね。それで、９月２１日、小金井市はけの森美術館というのも？

【事務局（吉川）】　そうですね、多目的室ですね。

【鉄矢会長】　多目的室？　さっき展示をすると言っていたのが。

【事務局（吉川）】　展示をするといったのは、もっとずっと先です。来年の２月、３月。

【鉄矢会長】　以前、単なる市民のワークショップみたいなものは展示をしないという話で、美術館の中に展示するもののクオリティをどうコントロールするかという話があったと思うのですけれども、どのような流れで、今、展示室を使わせるということになったのでしょうか。

【事務局（吉川）】　このワークショップを、市を挙げてやろうということの中で、ここの美術館としても協力して一緒にやっていきたいと思っていますし、この展示の部分については、例えば、子どもの作品をただ飾るというのではなくて、当然、クオリティの高いものをアーティストさんの作品を交えて、ちゃんと見せられるものとして、子どもの作品をただ展示するというものではないものを考えています。

【鉄矢会長】　以前、多分、「Ａｒｔｆｕｌｌ」という展覧会があったときは、ワークショップをやるときに、そのワークショップアーティストというのに信頼を置いてお任せしたような気がしていて、極端に言うと、市のお墨つきをもらったイベントだとここが使えるようになってしまうのか、そういう誤解を生まないために、今、説明をして欲しいです。総合ディレクターが全て責任をとるようなクオリティコントロールができるということで、総合ディレクターに信頼がおけるという判断を学芸のほうでしたと。

【事務局（吉川）】　判断を学芸のほうでします。ですから、学芸員がクオリティコントロールを美術館として行ったものを展示するような形になります。

【鉄矢会長】　そうですね。学芸員がクオリティコントロールしたものを、という点を押さえたいんですよ。だから、ディレクターやアーティストに信頼がおけるという判断なのかということが１つあると思ったのです。

【事務局（吉川）】　コミュニティ文化課としても、市としても新しい試み的にはしたいんです。ですが、美術館の今までの考え方と違うものを持ってこようとは思っていないです。

【鉄矢会長】　市がこれをやりたいから、美術館に持ち込んだという格好ではなく、学芸員が本当に質がいいかどうかを判断するステップを経た形のはずなんですよね。

【事務局（吉川）】　はい、もちろん、そういう意味です。

【山村委員】　今の５市共同事業「タマのカーニヴァル」の中の連続ワークショップと、はけの森美術館を会場とした単発ワークショップを総合して学芸員が主導して展示をするという意味ですよね？

【事務局（吉川）】　そうです。

【山村委員】　そうであれば、問題ないんじゃないですか。

【事務局（吉川）】　１点、ちょっと心配なのが、実は、学校出張ワークショップというのを学校に依頼していたのですが、他の市からは、「ぜひ、やってください」という意見が上がったのですが、小金井市だけ手が挙がらなくて、６月にご依頼したのですけれども、１校も手が挙がらなかったので、７月２４日に、市立の９小学校と中学校５校に再依頼をかけております。２校からは、「やりません」という返事が来ていて、２校からは「ちょっと、やりたいかな」という返事が来ております。

【上田委員】　それはどのような内容のワークショップなんですか。

【事務局（吉川）】　音楽と演劇とを混ぜ合わせたようなワークショップです。太鼓を叩いたり、リズムに乗ったり、要するに、ダンスの要素と音楽の要素と表現の要素を合わせて子どもたちにやってもらう。それは学校のご事情に合わせてどのようにでもプログラムは組み合わせてやります。

【山村委員】　ごめんなさい、それはこの「タマのカーニヴァル」の中の四角で囲ってある連続ワークショップはけの森美術館という連続ワークショップの中の一つですか。

【事務局（吉川）】　いえ、それとは違って、二本立てなんです。「タマのカーニヴァル」は、連続ワークショップと学校出張ワークショップの二本立てなんですが、その学校ワークショップのほうは美術館事業とは関係ないです、ちょっと誤解があったようで申しわけありません。

【山村委員】　美術館とは関係がないんですか。

【事務局（吉川）】　関係ないですが、二本立ての１本がちょっと困難な状態ですという

お話をしました。

【鉄矢会長】　それは大学も手を挙げられるんですか。

【事務局（吉川）】　いえ、小中学生だけです。ただ、連続ワークショップのほうは、定員１００名で、お子さんたちが今８９人くらい集まっているんです。ただ、メンバーを見たところ、どうしても低学年が多いので、できれば、大学生とか高校生とか、それはまた別なプログラムを組んで入っていただければいいなということは考えております。

【鉄矢会長】　はい、美術館事業とは違う話なので、この辺で。

「タマのカーニヴァル」は、これで終わりですね。

　では、４番目、「その他」に入ってよろしいでしょうか。その他、意見交換等ということですけれども、今回に限らず、ありましたらお願いします。

【上田委員】　いいですか。学芸大で開催されるものだと思うのですが、「青少年のための科学の祭典」というのがあるかと思います。

【鉄矢会長】　はい、あります。

【上田委員】　佐藤慶次郎の動くアート作品を紹介するブースを出したらおもしろいのではないかということが前回あったかと思うのですけれども、チラシをもらって、それに当たるのはどれだろうと思ってちょっとわからないのですが、どうなったのでしょうか。

【荒木学芸員】　たしか、募集のタイミングと、展覧会期間中なので、人を出すとこちらの開館が維持できないということがあったので、ブースを出すのは諦めたのですが、例えば、近隣の科学館の情報などのポスターやチラシを置くコーナーがあるのであれば、ぜひ、そこに置かせてもらってアピールしたいという話は出ております。

【鉄矢会長】　それは学芸大学が場所貸ししているという格好になっているんですね。主催がソロプチミスト。

【河合委員】　そうですね、教育委員会の生涯学習課が委員になっていたような気がするんだけれども。

【平岡委員】　それ自体は、主催は実行委員会をつくってやっているのですけれども、ずっとメインでやっていただいているのは、ソロプチミスト東京小金井という団体で、いろいろな奉仕活動等をされているのですが、この活動も比較的１つ大きな活動になっていて、教育委員会の生涯学習課と一緒になってずっとやってきている事業なんです。

　今回、ブースは、先ほど荒木のほうからもあったのですが、展覧会のタイミングと合ってしまったので、プレゼンというか、対応できるほどの熟知した者が伺う状況がなかなか

難しいということと、実行委員会さんとの接触もなかなかタイミングがうまく合わなかったということがありました。私のほうで、チラシなり何なりを、受付のところに一緒に置いてもらえませんかというアプローチをさせていただいて、受付で、会場の地図等も配布するものですから、そのような形でのＰＲにご協力いただけないかということを、今、内々にご相談をしているところです。

【鉄矢会長】　　小金井市の何かの展示というのは入っていないのですか。

【平岡委員】　　市自体は、例年やっているものの中だと、環境かごみ関係の部署が啓発なども、もしかしたら行っているかもしれないのですけれども。

【河合委員】　　結構たくさんの団体が出ていますね。

【平岡委員】　　この間もお話があったように、小金井は比較的技術系というか、理科系の学校が意外とあったりして、そういうのも１つのきっかけにもなっていたのかもしれないのですけれども、結構、高校生の所とか、皆さん、いろいろ出されているというふうには聞いているのですけれども。

【山村委員】　　何団体くらい出るんですか。

【鉄矢会長】　　私、チラシ見たことがないのですけれども。

【上田委員】　　タイトルしか書いてないですね。１００くらいありそうですね。

【河合委員】　　うちのほうにもチラシ来ていないですね、

【平岡委員】　　例年、時期的に多分、市報の８月１５日号と９月１日号には掲載されていたのですけれども、今回は、もしかしたら直前の１日号だけになるかもしれないのです。

【山村委員】　　やはり、団体としては学校関係とかＮＰＯとかが多いのですか。

【平岡委員】　　そうですね、多いですね。

【鉄矢会長】　　７,０００人から８,０００人、１日で来ますから。

【平岡委員】　　ええ、かなり大きな規模でやっていただいているので。

【鉄矢会長】　　ビデオはあるんですか。

【荒木学芸員】　　今回、既にカタログができておりまして、カタログとＤＶＤがセットになっています。

【鉄矢会長】　　ＤＶＤをループでずっと流しているテレビを子どものいるところに置いておけば、効果はあると思うんです。

　その他、意見交換等がなければ、次回運営委員会の日程調整をお願いします。

　では、１０月２９日１８時半から運営協議会を、場所はこちらでお願いします。

これで第２回小金井市立はけの森美術館運営協議会を閉会したいと思います。ありがとうございました。

―― 了 ――